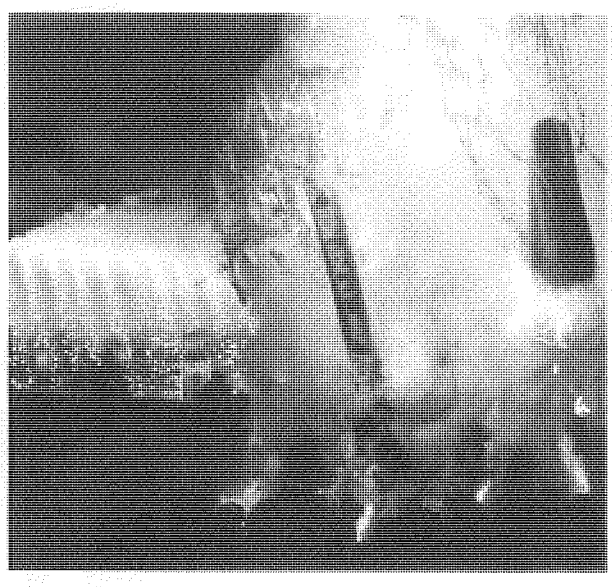
片貝新聞

発行所
片貝新聞社
〒947-0101
小千谷市片貝町10367-4
TEL 0258-84-3246
FAX 0258-84-2632
編集発行人　吉原芳郎
印刷所　吉原印刷㈱

題字　黒崎敬滌氏

JA片貝町
シンボルマーク
天の恵み地の恵み

市内一の規模で小正月行事
塞の神で不景気打破
花火、露店で今年も賑わう



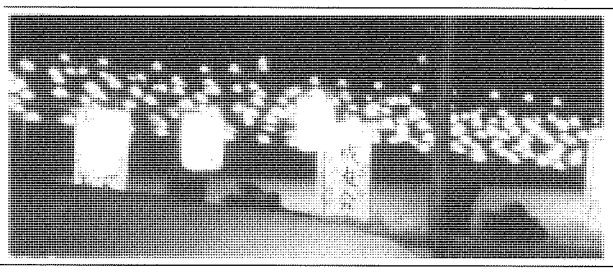
片貝町の小正月行事、塞の神行事が14、15の両日浅原神社をメイン会場に多彩な内容で繰り広げられた。

小若連は14日からモックラモチ、おんまいど。15日昼の部は商工振興会、煙火協会提供による景品多数の福もちまき。小塞の神は火まわりが早くアッという間に燃えてしまった。

本番の夜の部は午後6時から浅原神社参道にローソクがずらりと並べられた百八灯。御神火送り、小若連によるモックラモチ、おんまいど。7時から開会式、関広一市長と木村一男県議が訪れて挨拶。成人の愛郷会（安達健介会長）の小塞の神と仕掛け花火に点火、ステージから42歳の厄年を迎えた西戌会（阿部利勝会長）による福餅まきが行なわれ、大勢がこぞって福餅を拾っていた。これが終わると同時に大塞の神に点火、市内一といわれるだけあり、高さ7～8mの塞の神は勢いよく燃え上がった。ナイアガラの仕掛け花火、仕掛け花火が終わると花火が豪快に打ち揚げられ、光の競演。塞の神の火がおちつくと、それぞれが持ち寄ったスルメや餅をあぶる姿が目立ち、火にあたり一年間の無病息災を願った。

境内には10店程の露店が立ち並び、賑いを演出していた。

つぐみ会頑張る
500個のホンヤラ洞で
幻想的雰囲気



第23回卒のつぐみ会は、今年も浅原神社裏手の斜面にホンヤラ洞500個を出現させ、訪れた人達の目を楽しませた。つぐみ会のホンヤラ洞は今年で3年目。3年目にしてすでにすっかり定着した感があり、天候も良かったことから、ホンヤラ洞の間近まで行く人も多く、人気を集めていた。つぐみ会メンバーは昼、ホンヤラ洞作りに汗を流したが、「来年は1000個」の要望が早くも届いている。

主張

協議会の再生を望む

小正月行事も終り、心配された雪もこのところ小康状態で、寒に入りどうなるか分からないが、何となく今年も小雪で一安心といったところだ。

ところで三月の年度末を迎えると、またゾロ各種団体の役員改選となり後任役員のなり手がなく右往左往することは間違いない。

片貝の最重要団体といえばそれは協議会ということになろう。

もっともこれを構成する委員は各町内会長だからここまでは至ってスムーズに選出できる。肝心なのはこの町内会長の長で、この協議会長を選ぶ役になると毎年そのなり手がなく二進も三進も行かなくなる。

以前でもこの欄で指摘したが、協議会長になると何の幕にも引っ張り出され多忙このうえないのに、その割に極めて報酬は少なく、市内各地区の区長と比較すると彼等の一カ月分が片貝の協議会長の一年分だというから、それは少ないを通り超し呆れるとしかいいようがない。

もっとも協議会の顧問にまつりあげられ、会合の都度出席を要請されている市会議員が市長に立候補したのに、その推薦もできないような為体では、協議会そのものの存在が云々されても仕方ない気がしないでもない。

でき得ることなら新鮮な若いリーダーの出現が望ましいが、この不況下自分の仕事の先行さえ不透明な現代、小遣銭にも未たない報酬で誰が好き好んで火中の栗を拾う奇特の人がいるものか。

しかし、だからと言って協議会がなくても事足れりと思ってる輩もなきにしもあらずだが、いまのところ現実に機能しているからそんな呑気なことを言っていられるが、若しこの協議会が完全になくなってしまうと、町の生活基盤はすっかり狂ってしまい、住民生活に支障がでる。もちろん個々のグループはあって生活そのものはできようが、全体としての統制というかまとまりというか連帯としての行動が皆無となり無味乾燥な都会的な生活に陥ること必定である。

都会でいま子どもを主体にしたり住民が結集して「まつり的」な行動が復活しているのは、そうした環境から逃れ、もっとうるおいのある豊かな住環境を望むからにほかならない。従って片貝町協議会もいま存在しているものを絶やす必要もない。どうしたらより機能し住民の為になるか、じっくり考えて組織の根底から見直す必要があろう。

新年度から全面的な改革ができなければそれに超したことはないが、それは所詮無理な話でもっと腰を落ちつけて、すぐに実行できるのは別にして、組織人事面も含め再検討を要する時期だと思うが、当の主役たる町民はどう考えているのだろうか、町内単位に掘り下げても意志を確かめる必要がある。

今春から佐藤邸の運用も開始され経費のかかる問題もある。

幸い今年は選挙の年でもある。出馬予定者も含め片貝のビジョンを形成すべく活発な運動が展開され、活力ある町になるよう期待する。

今年の抱負

愛郷会会長（20才）　安達健介

昨年11月から私達愛郷会は、成人として最初の行事である塞の神の準備が始まりました。

事務所を開いた当初、何をして良いのかわからず不安と戸惑いの毎日でしたが、諸先輩方や町民の皆様の御指導、御協力により無事塞の神を成功させる事が出来ました。心からお礼申し上げます。

これから秋季大祭に向け役員を中心に愛郷会全員の心を一つにし、一生に一度しかない成人という晴れ舞台を楽しみ盛り上げていきたいと思っております。

まだまだ未熟な点も多く、皆様に御迷惑を多々おかけすると思いますが、温かい御支援、御指導を何卒よろしくお願い致します。

成友会会長（33才）　相崎貴子

私達成友会は、人生の節目でもあります三十三歳厄年を迎えることになり町民の皆様や家族のおかげと感謝しております。一月十五日には、厄祓行事も無事終了することができ会員一同うれしく思っております。女性にとりまして三十三歳前後はいろいろな面で一番変化のおこる年と言われております。そのような時でありますので心を引き締め、敬いの気持ちを忘れず健康に留意するとともに社会や家庭に対し責任ある立場であるということを自覚し努力して行きたいと思っております。私達成友会は男性39名女性30名総会員数69名という人数の少ない会です。秋季大祭に向けては、先輩方の御支援のもと準備を進めて行き楽しかったと思えるようがんばって行きたいと思います。

酉戌会会長（42才）　阿部利勝

私達個性派揃いの酉戌会も、いよいよ四十二歳という人生の大きな節目の年を迎えることになりました。これもひとえに町民の皆様方の御指導のおかげと心より感謝申し上げます。

厄年四十二歳と申しますと、職場や家庭において、より一層の責任感を持ち、地域社会に貢献しなければならないと思っております。

バブル崩壊後産業構造不況に入り何かと気持ちが沈む昨今ではございますが、秋の大祭には酉戌会一丸となり、先輩方の御支援のもと、華やかに記念行事を行ないたいと考えております。

永遠会会長（50才）　藤沢貞夫

一九九九年世紀末に向かう年、私達永遠会も五十歳という節目の年を迎えました。世の中の景気は長期低迷が続いており、生活の不安がひしひしと感じる今日であります。一時も早い景気回復を願うものであります。今年は、春に統一地方選挙が予定されており、我が永遠会も何かと忙しい年になると思われます。思い起こせば八年前の四十二歳厄祓い行事の時が同様であり、会員一同一致協力がんばった事が昨日のように思い出されます。今回も会員の心をひとつにして記念行事を、明るく楽しく元気よく行ない、北は北海道、南は島根や兵庫から参加の仲間共どもとにぎやかな時を過ごせたらと思っております。永遠会の名前の如く「同級生の絆は永遠に」より一層絆を深めたいと願っております。

若杉会会長（60才）　品田正明

今年は、私達若杉会が、還暦を迎える年になりました。今感激を新たにしているところです。自分自身は還暦といわれても実感がなく、いたずらに年を重ねてきただけ、というような気がしております。会員の皆様方は夫々いろいろの人生を歩んできたと思いますが、我々が今日まで無事にやって来ることができたのは、地域の皆様のおかげと、深く感謝しております。

秋季大祭記念行事には、会員全員の参加を呼びかけ、行事を通じて、親睦を確かめ合い、思い出に残る第二の人生の出発点としたいと思っています。どうか町民の皆様のご声援よろしくお願いいたします。そして、この町が良き故郷であり、いつまでも住み良い町として、さらに発展できますようお祈りいたします。

かたかい春秋

新年が始まったと思っていたら、もう一カ月が経ってしまった。もうすぐ節分、立春を迎える。小千谷からも鬼を退治できないものかと願っている。▼関市長は誕生以来、すぐに助役、収入役を選び、今年に入ってからは給食問題にもケリをつけた。前任者とは大いに違うところを見せつけた観で、民意は間違いではなかったとの証明でもあろう。不満分子にとっては、癪に障ることこのうえないことで、別のところでなんくせつけたがるものである。そのような輩は無視することが一番で、信念をもって市政運営を願いたい。▼さて、統一地方選挙が近づいてきた。県議選は現職の木村一男県議の独走なのではなかろうか。二年に満たない任期だったので、勿論瑕疵（かし）があったわけでなく、ようやく関市長とのラインがつながり、これからの手腕に期待がかかるところであろう。▼片や市議選はどうであろうか。他の新聞情報では数名増の激戦が予想されている。無競争だけは回避出来て何よりではある。片貝からは現職の3名のみの顔ぶれとなりそうであるが……。今さら言うまでもないことであるが、市会議員は行政をチェックし、議決権を有しており、それなりに重要なポストである。市政全般を見渡して、片貝の発展のことをも考慮できる人でなければならない。▼議員バッヂをつけたとたん、肩で風切るような人ではこまる。自分の所に最初に話しがこなかったから反対、○×市議が賛成しているから自分は反対、のような行動をとる市議はいないか。業者の間を暗躍、恐喝まがいの行為で金を受け取っているような市議はいないとは思うが、有権者は選挙をもって、鬼退治をしなければならない。

新年にホットな話題
元旦に老人ホーム慰問

片貝の各方面で活躍している三人が、元旦に小千谷市養護老人ホーム（小宮治郎園長）を慰問した。

慰問したのは片貝謡曲会に所属している小野塚芳二さん（二之町）、伝統芸能保存会々員の溝手勝治さん（稲場）、町内会等で頑張っている安達英雄さん（五之町）の三人。

小野塚さんは謡曲二曲、溝手さんは相模甚句・道中木遣り、安達さんは盆舞・舞踊をそれぞれ披露した。

三人は、老人ホーム園長の同級生であり、日頃の会話のなかから元旦のホーム慰問を思いたったとのことである。

ホームには現在五十人の人達が入所しており、元旦のおせち料理を食べながらお正月にふさわしい謡曲、めでたい相模甚句に道中木遣り、動きのある威勢のいい盆舞に剣舞と三人の芸を楽しんだ。

一緒に慰問に来たお孫さんから一人一人にお菓子が渡され、お年寄さん達は「かわいいね、ありがとう」と大喜び。

また、三人の衣装がそれぞれの芸に映えて会場は一層盛り上がり、大きな拍手と笑顔がお正月の明るい雰囲気をかもしだしていた。

終った後でお年寄さんに「元旦だてがんにの、ありがとの、お土産までもらっての」と握手を求められ、三人は大感激「皆さん元気でいい表情をされている。私達もいい経験をさせてもらった」と、これまた晴れ晴れとした顔が印象的。

ホームの園長は「正月の元旦にホームを慰問していただいて本当に有り難いことです。ホームの皆さんもいい正月を迎えることができました」と感謝の言葉を語っていた。

訂正

平成11年1月1日号2面「本田善治氏胸像計画」の記事中山田益宏とあるのは山口益宏さんの誤りでした。

また、同2面「県ジュニア展片貝小の4名が入選」の記事中デザイン部門相崎訓史さん（6年生）の名が欠落しておりました。訂正して、お詫びいたします。

すごいぞ片貝中バスケット

節目の第30回中越親善大会を制す

高まる今年の本大会への期待

第30回中越地区中学校親善バスケットボール大会（主催＝片貝町体育協会、後援＝市教育委員会、片貝中学校同窓会、主管＝片貝町バスケットボール協会、片貝中学校）が1月17日(日)午前8時30分から片貝中学校体育館で開催された。

この大会は伝統的に強いバスケットボールをより一層の強化を目的として毎年開催されている大会で、今年も中越地区内の各郡市新人大会上位に入賞した強豪12チーム180名の選手を主催者の片貝町体育協会（会長大矢孝四郎）が選抜して、トーナメント形式で行なわれ、片貝中学校バスケットボール部が第24回大会以来6年ぶり8回目の優勝で節目の第30回大会に花を添えた。

片中チームはシードされ2回戦から登場して、越路中を47対30（前半30―9、後半17―21）で下し、続く準決勝では六日町中を43対40（前半22―19、後半21―21）の僅差で勝ち決勝に駒を進め、決勝戦では今年度長岡地区一位で第29回大会（昨年）優勝チームの宮内中を前半30対13と大きくリード。後半は26対25と接戦になったが、結局56対38の大差で敗り、昨年12月新潟市で行なわれたBSN杯に続いての優勝となった。なお、小千谷中は2回戦で六日町中と対戦し47対46の一点の僅差で敗退した。片貝中登録メンバーは次のとおり。敬称略。

▽吉原佑、安部勇樹、本田祐輔、山口直紀、市川慎吾、吉田英、安達勇二郎、小比田俊樹、藤塚明央、吉井亨、石上崇博、小野塚昴平、吉田豊、吉原洋、佐藤洋平。

12月のBSN杯も制す

決勝で鳥屋野中に辛勝

第13回BSN杯県中学選抜新人バスケットボール大会が12月26(土)、27(日)の両日新潟市東総合スポーツセンター等で開催され、片貝中学校バスケットボール部が各地の強豪を破り10年ぶり2回目の優勝を果たした。

大会初日から順当に勝ち進んだ片貝中は準々決勝戦で豊栄光晴中を43対32で下し、続く準決勝では長岡宮内中と延長までもつれ込む白熱した戦いを48対43で勝ち決勝に駒を進めた。新潟鳥屋野中との決勝戦では、22得点を上げた片中チームのセンター安部勇樹君などの活躍もあって、44対42の一ゴールの僅差でスピードで勝る相手の速攻を振り切り10年ぶりの優勝に輝いた。

こいつは春から～

JA片貝 新春ふれあい抽せん会

大勢の人出で賑わう

JA片貝町（友田明石組合長）主催の「新春ふれあい抽せん会」が今年も昨年に引き続き、正月の3日(日)午前10時～午後3時まで、JA片貝町本所と高梨支所の二会場で開催された。

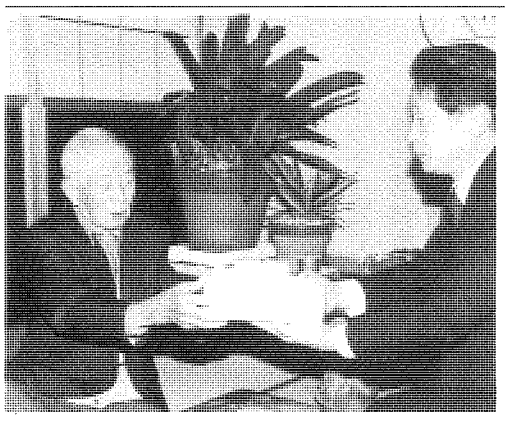
この「新春ふれあい抽せん会」は昨年12月の年末感謝キャンペーンで、貯金の預け入れ、Aコープでの買い物、主食用米購入、JA給油所でのガソリン、石油など全てに抽せん券及び補助券を発行して実施した。

今回はJA片貝町創立五十周年を記念して、一等、二等が昨年の倍で空クジなし、当たりクジの総本数も千本と昨年よりも多く、大好評だった。また会場ではお神酒や日本海荒磯汁が無料で振る舞われ、JA職員手作りで、市価よりも格安の開運鯛やき、タコやき、肉まん、来福石焼きイモ等が飛ぶように売れ会場は活気に満ちていた。

関係者は―12月のキャンペーンも大成功のうちに終わり、今回の抽せん会でも一人80本以上抽せんする人が数人いて（昨年60本）大盛況です―とニコニコ顔。

米寿の皆さんおめでとう

JA片貝町が記念品贈る



JA片貝町（友田明石組合長）では今年米寿を迎えた管内25名（明治生れ男4名、女9名、計13名、大正生れ男3名、女9名、計12名）にお祝い状と金杯、お菓子を本人に届け長寿を祝った。

当日（1月8日(金)）今年初めての吹雪の悪天候の中友田組合長は、大正元年生れで17才の時から60年間杜氏の仕事に携わり、現在は悠悠自適の毎日を過ごしている五之町の安達作次さん宅を訪れ「おめでとうございます。これからも長生きをして、後進に指導を」と激励。「ありがとうございます。長寿の秘訣は特別ないが、若い時から登山をしていたこと（一昨年も八海山に登った）や家族の協力、そして毎晩熱燗でキューとお酒を飲むこと」と安達さんは笑顔で語っていた。

今年米寿を迎えた人達は次のとおり。敬称略。（　）内は町内、生年月日、世帯主。

▽高野武（山屋、明治45年3月29日、盛）、▽久賀八重（山屋、大正元年9月7日、正勝）、▽小宮チセ（寺町、大正元年12月8日、克之）、▽徳永正治（寺町、大正元年10月23日、一位）、▽小林キミ（寺町、大正元年12月6日、勉）、▽神林徳一（町裏、明治45年5月30日、徳夫）、▽小宮六松（町裏、明治45年2月9日、哲雄）、▽小野塚ツヨ（町裏、明治45年5月1日、昭平）、▽佐藤ムツ（二之町、明治45年7月25日、博和）、▽安達ギン（二之町、大正元年8月17日、泰昭）、▽佐藤シウ（二之町、大正元年10月19日、シウ）、▽小林八重（茶畑、明治45年2月13日、光紀）、▽佐藤健次（茶畑、明治45年3月15日、健次）、▽伊藤ムメ（四之町、明治45年1月1日、浩一）、▽三重堀テル（四之町、明治45年3月11日、一郎）、▽吉井タイ（四之町、大正元年11月9日、新一郎）、▽浅田キヨ（四之町、明治45年5月18日、治夫）、▽安達ハル（五之町、明治45年4月23日、一夫）、▽安達作次（五之町、大正元年9月17日、幸雄）、▽小林慶一（鴻巣、大正元年12月4日、慶松）、▽岡イト（高梨、明治45年1月2日、弘）、▽渡辺マツ（高梨、明治45年1月3日、良作）、▽勝野チョ（五辺、大正元年10月21日、弘）、▽大平ツヘ（五辺、大正元年10月29日、卓）、▽大平キク（五辺、大正元年11月25日、勝志）

ベルマークを集めて下さい

片貝小児童と保護者が協力要請

片貝小学校では子供と保護者が協力してベルマーク収集活動を展開しており、町民の協力を呼びかけている。

ベルマークは一点二円になり、昨年7月には平成9年度までのお金で、3年生以上の各クラスにキーボードを購入出来た。

「平成10年は皆さんのご協力により、七万五千円以上の成果となりました。今年も引き続きご協力をお願い致します。」と関係者。

収集箱は片貝小学校、片貝中学校、片貝保育園、JA片貝町生活センター、佐藤写真館、八百彦、魚金に設置してあるが、小学生に直接渡しても可。

ベルマークはノート類、ラーメン、焼ソバ、ガム、チョコレート、カレー、ハミガキ粉、マヨネーズ、フイルム、ティッシュ、冷凍食品、マカロニ、サラダ油、カレーなど多数の商品についている。

片貝ヒューマンウオッチング

教育委員の五十嵐さん

昨年12月の定例市議会において、市教育委員会委員に選任された鴻巣の五十嵐愛子さん（年齢省略）に登場願った。

選任された感想を尋ねると「とてもとまどっています。重いものを引き受けてしまった、と気が重いです」と語る。その理由は、まだ2人の子供の子育ての最中で、教育の専門家でない自分がとても偉そうなことは言えないから、と謙虚な言葉。

しかし教育委員としての抱負を尋ねるときちんとした答えが返って来た。

「今の風潮は、どうも安易な方へ流されている気がします。一歩立ち止まって、〝自分〟という生命を与えられたからには、その生命の原点を問いかけること、自分の心の中をのぞいてみること、これらが必要なのではないでしょうか。大人も子供も、教師も親も、これらのことを考えてみるゆとりを持ちたいものです。また、国際交流などの体験の中から、少しでも視野の広い発言をしていかれたら、と思っています」。

その国際交流は、多くの農業留学生を自宅に受け入れており、経験は豊富だ。今までにタイから1名、インドネシアから7名、合計8名（男6名、女2名）を毎年1名ずつ4月から11月までの8カ月間受け入れている。研修生との出会いは、いろいろ楽しい思い出ばかりであるが、苦労するのは食べ物という。インドネシアは宗教が沢山あり、中でもイスラム教は豚肉を食べないので、食事面でかなり気を使ったとのこと。

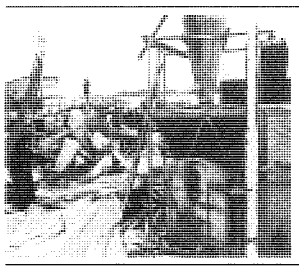
五十嵐さん宅はユリのカサブランカの栽培を中心にしており、直売や直送したお客さんから礼状や電話があった時は、とても嬉しく作り手冥利に尽きる。農作物を通して人と人とが出会えることが魅力。タネをまいて芽が出て、それが大きくなって野菜になったり、きれいな花になったり、その過程の偉大さには感動する。〝育てる〟〝待つ〟ということ、収穫を〝待つ〟ということを教えられている気がする――と熱く語る。

東京都目黒区出身。片貝については、「同級会がきちんとまとまっていて、その結束力はすばらしい。ただ、私のように外から来た者にとっては、その輪の中に入り難く、いつまでたっても部外者の意識をまぬがれないことは、ちょっぴり残念」とこれまた核心をつく言葉。

趣味は文章を書くこと、絵画やクラシック音楽鑑賞、今はGLAYにはまっている、とニッコリ。日本社会事業大学専修科卒。今までに市社会教育委員、市図書館協議会委員を務めた。家族は夫、夫の両親、子供2人の計6人。

千洲額縁全焼

1月10日深夜

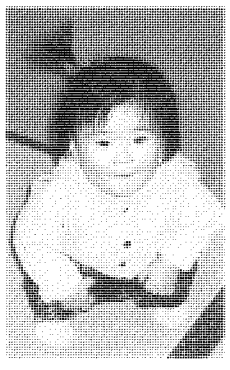


消防出初式（1月10日(日)午前10時から）が行なわれたその夜（11日(月)午前0時30分頃）沼田にある千洲額縁㈱新潟工場（本社東京、友田勝良社長）から出火、木造トタン葺き一部2階建ての工場と隣接する木造トタン葺き平屋建ての製品倉庫など、合計千三百平方メートルを全焼して午前3時40分に鎮火した。

小千谷地域消防本部の化学消防車を初め消防団のポンプ自動車16台と、長岡地域消防署越路出張所、越路消防団からも一台ずつ応援に駆けつけ消火活動を行なったが、額縁の材料が燃えやすい物が多く、消防車が現場に駆けつけた時は、すでに火の海で、鎮火までに時間がかかった。

10日(日)は工場は休みであったが、午後10時半過ぎまで2名が仕事をしていたが出火当時は無人でけが人はいなかった。

ハローベイビー



○小宮麻莉（まり）ちゃん（新屋敷）

パパ　幸浩さん（33才）

ママ　加代子さん（30才）

第1子長女

平成9年10月27日生

現在の体重9kg身長75cm

Q名前の由来

A覚えやすく、人に親しまれる、響きとバランス。

Qお子さんの様子

Aチョンマゲが無ければ、男の子かと思う程活発で、万歩計を付けたら、800歩近く走っていました。

Qどんな子に育って欲しいですか

A結婚式に友達が100人集まる様な、思いやりのある、それでいて自分の意志をしっかりと持った、アンパンマンの様な子。